



～血液検査の意味と基準値～

東邦大学医療センター大橋病院臨床検査部

- ここに掲載された基準値は東邦大学医療センター大橋病院のものです。基準値とは健常人の95%が含まれる下限値と上限値の範囲の値であり、この値をはずれたものが、即疾患の有無を示すものではありません。また測定した施設によって基準値は若干異なります。
- 血液検査の結果は、年齢や性別、食事、運動などの条件で変動します。検査結果の詳細につきましては、直接担当医からお聞き下さい。
- ここに掲載されました項目以外のものにつきましては、直接担当医にお尋ね下さい。

【生化学検査】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
TP	総蛋白	6.9～8.6	g/dl	これらの項目は栄養状態および肝・腎機能を評価するために必要な検査です。
ALB	アルブミン	3.8～5.3	g/dl	
T-Bil	総ビリルビン	0.2～1.2	mg/dl	ヘモグロビンの代謝産物です。肝疾患の診断、黄疸の鑑別などに必要な検査です。
D-Bil	直接ビリルビン	0.0～0.2	mg/dl	総ビリルビンとともに、肝疾患の診断、黄疸の鑑別などに必要な検査です。
AST	アスパラギン酸 アミノトランスフェラーゼ	12～33	IU	代表的な肝機能の指標です。肝障害時のほか、骨格筋、心筋の障害時でも高値となります。
ALT	アラニン アミノトランスフェラーゼ	5～35	IU	代表的な肝機能の指標です。肝障害時に高値となります。
LDH	乳酸脱水素酵素	275～512	IU	心臓や肝臓の各種疾患、貧血や炎症などで高値となります。
ALP	アルカリ性 フォスファターゼ	90～298	IU	肝・胆道系疾患、骨疾患などで高値となります。
γ-GTP	ガンマグルタミル トランスペプチダーゼ	4～42	IU	肝機能の指標の一つです。アルコール性肝障害などで高値となります。
CHE	コリンエステラーゼ	185～431	IU	肝臓で合成されるため、肝疾患で低下します。また脂肪肝では高値となります。
BUN	尿素窒素	8～23	mg/dl	これらの項目は代表的な腎機能の指標です。腎機能の低下、腎不全などで高値となります。
CRE	クレアチニン	0.6～1.2	mg/dl	
UA	尿酸	男:4.0～7.0 女:3.0～5.5	mg/dl	核酸(プリン体)の最終代謝産物です。高値では痛風の危険因子となります。

【生化学検査(続き)】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
T-CHO	総コレステロール	128～240	mg/dl	血液中のコレステロールの総量を調べる検査です。高値では動脈硬化症の危険因子となります。
HDL-CHO	HDL-コレステロール	男:35～70 女:40～75	mg/dl	一般的に善玉コレステロールと呼ばれます。低値では動脈硬化症の危険因子となります。
TG	中性脂肪	40～150 (空腹時)	mg/dl	血液中の中性脂肪の量を調べる検査です。高値では動脈硬化症や膵炎の危険因子となります。食事の影響を大きく受け、食後に上昇します。
LDL-CHO	LDL-コレステロール	65～139	mg/dl	一般的に悪玉コレステロールと呼ばれます。高値では動脈硬化症の危険因子となります。
Na	ナトリウム	135～147	mM	これらの項目は水分の代謝異常や体液のバランスを調べるために必要な検査です。腎不全などで低値となり、脱水や下痢などで高値となります。
Cl	クロール	98～108	mM	
K	カリウム	3.0～4.8	mM	
Ca	カルシウム	8.2～10.2	mg/dl	骨代謝や筋収縮、血液凝固に関与します。腎臓や骨、副甲状腺の疾患などで変動します。
P	無機リン	2.5～4.5	mg/dl	カルシウムと同様に主に骨代謝に関与します。腎臓や骨、副甲状腺の疾患などで変動します。
Mg	マグネシウム	1.8～2.4	mg/dl	生体の様々な酵素反応や代謝に関与する微量元素です。腎不全などで高値となり、摂取不足などで低値となります。
Fe	鉄	男:54～181 女:43～172	μg/dl	鉄は赤血球中のヘモグロビンを構成する成分の一つです。これらの項目は貧血症を診断するために必要な検査です。
UIBC	不飽和鉄結合能	男:111～255 女:137～325	μg/dl	
TIBC	総鉄結合能	男:231～385 女:251～398	μg/dl	
AMY	アミラーゼ	65～160	IU	膵臓や唾液腺から分泌される酵素です。膵疾患や唾液腺疾患などで高値となります。
CPK	クレアチンキナーゼ	32～187	IU	骨格筋や心筋、平滑筋、脳に存在する酵素です。これらの部位が損傷すると高値となります。
CRP	C反応性蛋白	0.0～0.3	mg/dl	代表的な炎症マーカーです。感染症や膠原病、外傷などの診断や経過観察に必要な検査です。
NH3	アンモニア	12～60	μg/dl	蛋白質の代謝の過程で産生され、神経毒性があります。肝障害時に高値となります。

【生化学検査 (続き)】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
GLU	血糖	71~110 (空腹時)	mg/dl	糖尿病を診断するための基本的な検査です。食事の影響を大きく受け、食後に上昇します。
HbA1c	ヘモグロビンA1c	4.3~5.8	%	糖尿病の診断と経過観察に必要な検査です。過去1~3ヶ月間の平均血糖値を反映します。
グリコ アルブミン	グリコアルブミン	12.4~16.3	%	糖尿病の診断と経過観察に必要な検査です。過去1~2週間の平均血糖値を反映します。

【凝固検査】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
PT (S)	プロトロンビン時間	9.5~12.5	s	抗凝固療法でのワルファリン効果をみるための検査です。また、出血傾向や肝機能の検査としても用いられます。

【血液検査】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
WBC	白血球数	4.0~9.0	$\times 1,000$ / μ l	血液中の血球成分の一つで、細菌や異物などを排除する生体防御に関与します。炎症性疾患や血液疾患などで増減し、その診断や加療後の経過観察に必要な検査です。
RBC	赤血球数	男:410~550 女:380~480	$\times 10,000$ / μ l	赤血球は血液中の血球成分の一つで、全身に酸素を運搬する働きがあります。これらの項目は様々な貧血症で減少し、多血症では増加します。
Hb	ヘモグロビン濃度	男:14~17 女:12~16	g/dl	
Ht	ヘマトクリット値	男:40~48 女:34~42	%	
MCV	平均赤血球容積	83~98	fl	
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	27~32	pg	これらの項目は赤血球の大きさ、赤血球中に含まれるヘモグロビンの量や濃度を調べる検査です。鉄欠乏性貧血などの貧血症の種類を鑑別するために必要な検査です。
MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	32~36	%	
RDW	赤血球分布幅	9.5~14.5	%	赤血球の容積を分布幅で示しています。赤血球の大小不同、貧血の鑑別や治療後の経過観察などに必要な検査です。
PLT	血小板数	13~35	$\times 10,000$ / μ l	血液中の血球成分の一つで、出血を止める働きがあります。様々な血液疾患で変動します。

【血液検査（続き）】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
SEG	好中球数	40～60	%	細菌などの異物を貪食、殺菌処理して生体防御に関与します。一般に細菌感染症や炎症などで増加します。
LYMPH	リンパ球数	25～45	%	生体に侵入した異物を直接攻撃したり、免疫機能によって排除します。一般にウイルス感染症やリンパ球性の血液疾患などで増加します。
MONO	単球数	4.0～7.0	%	殺菌作用、血球や異物の処理、免疫反応など多彩な機能があり、様々な疾患で増減します。
EOSIN	好酸球数	1.0～5.0	%	アレルギー性疾患で増加します。また顆粒球減少を起こす可能性のある薬剤投与後の治療効果の判定に有用な検査です。
BASO	好塩基球数	0.0～1.0	%	主にアレルギー性疾患で増加します。また、好塩基球から放出されたヒスタミンは即時型アレルギーの指標となっています。

【尿・一般検査】

検査項目	名称	基準値 (成人)	単位	検査の意味
比重	比重	1.010～ 1.030	-	腎臓の尿の濃縮力を調べる検査です。腎疾患や水分摂取、発汗、運動などで変動します。
pH	ペーハー pH	5.0～7.0	-	尿の酸性度を調べる検査です。通常は中性～弱酸性ですが、様々な要因で変動します。
U-TP	尿蛋白	30以下	mg/dl	尿中の蛋白を調べる検査です。腎疾患などで病的に検出される場合のほか、妊娠や運動後などで一過性に検出されることもあります。
U-Glu	尿糖	(-)	g/dl	尿中の糖を調べる検査です。糖尿病や腎疾患などで検出されます。
KET	ケトン体	(-)	-	糖代謝よりも脂肪代謝が亢進すると尿中に検出されます。糖尿病、高熱、下痢、嘔吐などで陽性となります。
U-Bil	尿中ビリルビン	(-)	-	尿中のビリルビンを調べる検査です。肝機能障害や胆道閉塞などで陽性となります。
RBC	潜血	(-)	-	尿中の出血の有無を調べる検査です。結石や炎症などがあると陽性となります。
NIT	亜硝酸塩	(-)	-	通常、尿中には検出されません。陽性の場合には、細菌性の尿路感染症が疑われます。
URO	ウロビリノーゲン	2.0以下	EU/dl	ビリルビンが腸で代謝され、尿中に排泄されたものです。肝機能障害などで増加し、胆道閉塞では陰性化します。
WBC	白血球	(-)	-	尿中の白血球を調べる検査です。尿路感染症などで陽性となります。

平成19年4月 改訂